

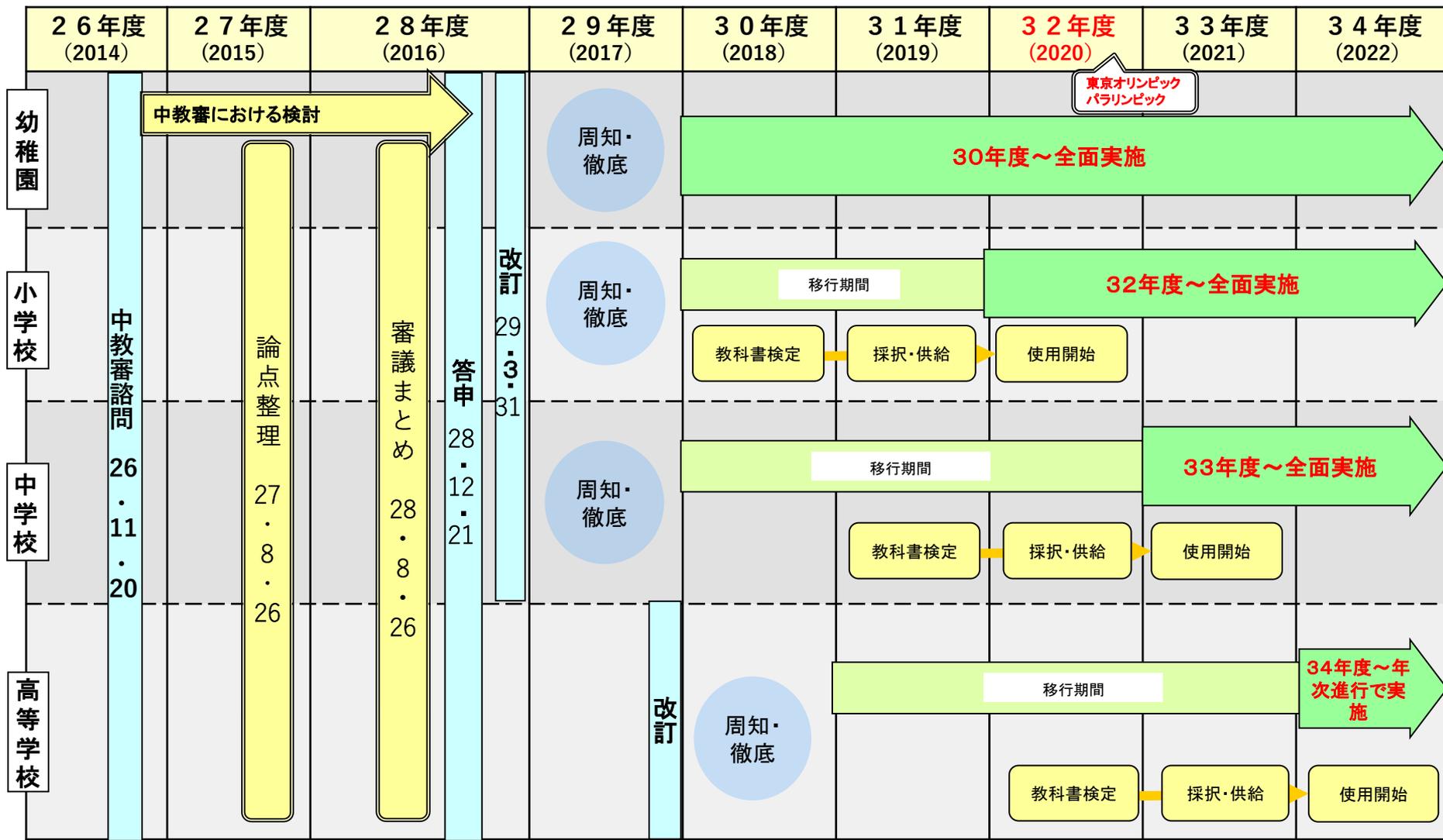
平成30年度 小学校教育課程説明会 外国語活動・外国語科

平成31年1月16日(水) 県立教育研究所
奈良県教育委員会事務局学校教育課 義務教育係
指導主事 松本 彩恵

本日の説明内容

- I 外国語活動・外国語科のポイント
- II 授業づくりの視点「言語活動を通して」
- III 読むこと・書くことの指導の在り方
- IV 小中連携
- V 学習評価について

今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール



特別支援学校学習指導要領（幼稚部及び小学部・中学部）についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。
 特別支援学校学習指導要領（高等部）についても、高等学校学習指導要領と一体的に改訂を進める。

新しい学習指導要領の特徴

これまでの学習指導要領は「何を教えるか」ということを中心に組み立てられおり、「何ができるようになるか」という視点が足りていないという指摘があった。



新しい学習指導要領は、「教員が何を教えるか」だけでなく、学習する側の「子どもの視点に立った」学習指導要領である。

「社会に開かれた教育課程」を重視

今回の改訂では、これまでの学校教育の実践や蓄積を生かして、子どもたちが新しい社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すことが示されています。

また、子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携・協働によりその実現を図ること（「社会に開かれた教育課程」）が重要となります。

新しい学習指導要領の三つのキーワード

キーワード1 育成を目指す「資質・能力」

学びを人生や社会に生かそうとする
「学びに向かう力・人間性等」の涵養

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的に捉えて構造化

何を理解しているか
何ができるか

生きて働く「知識・技能」の習得

理解していること・
できることをどう使うか

未知の状況にも対応できる
「思考力・判断力・表現力等」の育成

キーワード2 「主体的・対話的で深い学び」

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

「主体的・対話的で深い学び」は、「形式的に対話を取り入れる」ことや「特定の指導の型」を指しているではありません。「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、次の三つの視点で授業改善を進めましょう。

視点1 主体的な学び

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができているか。

視点2 対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

視点3 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び

深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成



【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

キーワード3 「カリキュラム・マネジメント」

学校が設定した教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成・実施・評価して、改善につなげていくことが「カリキュラム・マネジメント」です。

「カリキュラム・マネジメント」には、次の三つの側面があります。

側面1

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、その目標の達成に必要な教育の内容を、教科等横断的な視点で組織的に配列していく。

側面2

教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。

側面3

教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を効果的に組み合わせる。

I 外国語活動・外国語科のポイント

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 P. 8(外国語活動)、P. 64(外国語)

「導入の趣旨と要点」から

外国語学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の**学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得**され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。

I 外国語活動・外国語科のポイント

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 P. 11(外国語活動)、P. 67(外国語)

外国語活動の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 P. 11(外国語活動)、P. 67(外国語)

「見方・考え方を働かせる目的

見方・考え方①

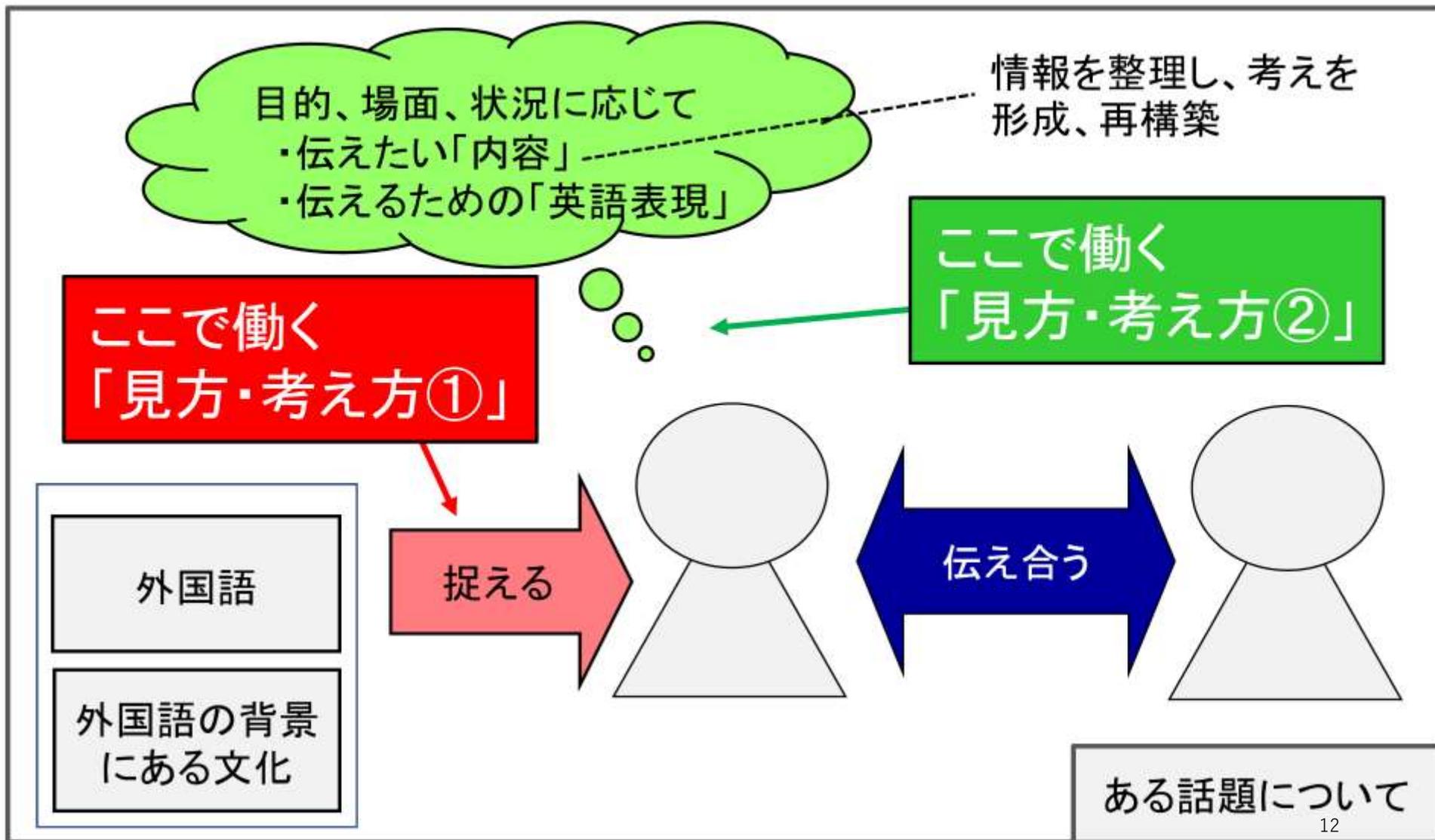
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

見方・考え方②

I 外国語活動・外国語科のポイント

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を表す図(例)

※以下の図では、便宜上、「見方・考え方」を、①と②の二つに分けて示している。



I 外国語活動・外国語科のポイント

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 P. 12(外国語活動)、P. 68(外国語)

「外国語活動・外国語科の目標」から

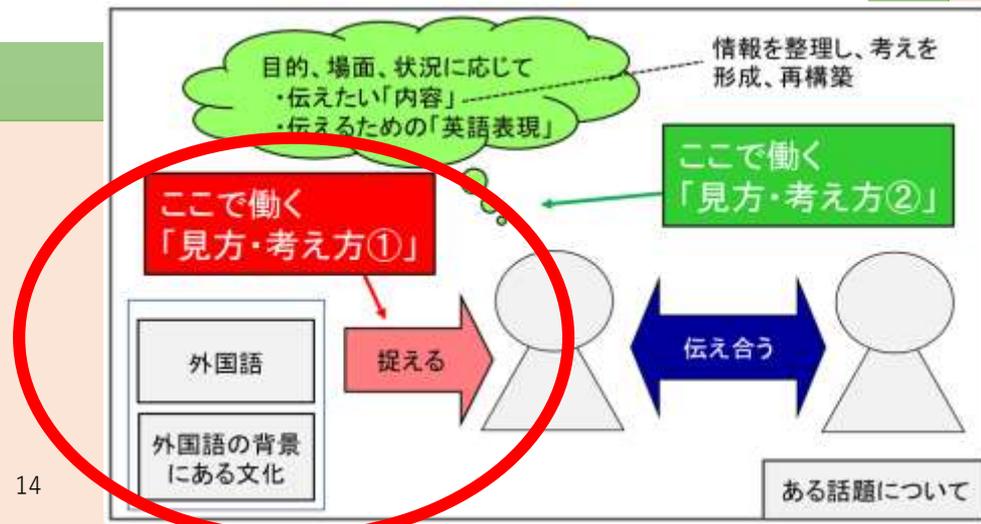
初めて外国語に触れる段階である小学校においては、母語を用いたコミュニケーションを図る際には意識されていなかった、相手の発する外国語を注意深く聞いて何とか相手の思いを理解しようとしたり、もっている知識などを総動員して他者に外国語で自分の思いを何とか伝えようとしたりする体験を通して、日本語を含む言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを改めて感じることが、言語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で重要であり、言語への興味・関心を高めることにつながると考えられる。

I 外国語活動・外国語科のポイント

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 P. 12(外国語活動)、P. 68(外国語)

「外国語活動・外国語科の目標」から

したがって、小学校における外国語教育においては、先に述べた「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」のうち、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉える点を重視すべきであると考えられる。



知識及び技能

外国語 活動

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

高学年 外国語

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

中学校 外国語

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力，判断力，表現力等

外国語 活動

身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

高学年 外国語

コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

中学校 外国語

コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

主体的に学習に取り組む態度

外国語活動

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

高学年外国語

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

中学校外国語

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「**活動**」を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かということそうではない。(中略) 例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることのないように留意する必要がある。

『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』

外国語活動の授業で、こんな経験はないですか？

- 黒板に貼られた会話の掲示物を見ながら言っている。
- Aさんが言いよどむと、Bさんが「“～” って言うんだよ。」と教えている。
- チャンツとゲームであれだけ聞いたり言ったりしたのに、まだ言えない子供がいる。
- 言い方をカタカナで書いて、それを見ながら言っている。

Ⅱ 授業づくりの視点「言語活動を通して」

決まったパターンを言わせるだけでいいの？

これって、覚えたことを言っているだけじゃないの？

子供の本当に聞きたいこと、言いたいことなの？

ここに「思考」はあるの？

コミュニケーションポイント

Eye contact
Smile
Clear/Big voice
Gesture

+

Reaction
Response
ふわふわ言葉

もう一步進めてみませんか

例えば、Small Talkは

- ライブ、本当のことを言うから、楽しい。
- その場で、何が出てくるか分からないから、楽しい。
- 今までに習った語句や表現からどれを使ったらいいかを**考えて**言えたとき、相手に伝わったときは、とっても嬉しい。

Small Talk

- 既習語句や表現を繰り返して活用する
- 対話を続ける
- ウォーミングアップではない、主たる言語活動の一つ
- まとまりのある話を聞いて理解したり、やり取りをしたりする
- 新教材5、6年生のみに設定
- 2時間に1回程度設定

5年 インプット中心、指導者と子供のやり取り中心
6年 子供同士のやり取り中心

ねらい

- 「できるようにする」

外国語科の目標 既習語句や表現の活用

- 子供が伝え合いたいことを伝え合えるよう、対話を継続させることができるようにする

子供のもっと聞きたかった、言いたかったを実現
既習語句や表現の活用

- そもそもコミュニケーションは、その場でなされるので、その場でやり取りができるようにする。

既習語句や表現の活用

Ⅱ 授業づくりの視点「言語活動を通して」

対話を続けるための基本的な表現の定着を図る

- ①対話の開始：対話の初めの挨拶
- ②繰り返し：相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること
- ③一言感想：相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝えること
- ④確かめ：相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと
- ⑤さらに質問：相手の話した内容についてより詳しく知るために、内容に関わる質問をすること

A: I like fruits. B: What fruits do you like? など

- ⑥対話の終了：対話の終わりの挨拶

Nice talking with/to you. /You, too. など

「小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック」

進め方例

① 指導者と児童で簡単なやり取り

話題の提供
言い出し方の提供

② 児童と児童でやり取り

まずは、やらせてみる

③ 指導

- 言えなかったことを、既習表現に結び付けられるようヒントを出す
- みんなでどう表現すればいいか考える

④ 相手を替えて児童と児童でやり取り

既習表現を活用させる

そんなSmall Talkをするのに必要なものは何？

子供の既習語句や表現を把握していること

子供がどう言ったらいいか分からないということを、既習表現を活用できるようにかみ砕くこと

子供が興味をもって話すだろうという、また、学習単位とかかわりのあるお題が選択できること

子供がさっと次の行動に移れる規律を学級に創っていること

使いながら、使えるようになるという意識

子供とやり取り、子供同士でやり取りをして進める授業形態を、どの教科等でも実践していること

子供とやり取りをする英語力

Ⅱ 授業づくりの視点「言語活動を通して」

外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

小外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

中外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。

高外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら⁴⁵を結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す。

高学年外国語科

<p>知識 及び 技能</p>	<p>(1)外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。</p>
<p>思考力、 判断力、 表現力等</p>	<p>(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について聞いたり話したりするとともに音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。</p>
<p>主体的 に学習 に取り 組む 態度</p>	<p>(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>

次のような文を読んで書けるようになるために

We Can 2 Unit 9

I want to join the soccer team.
What club do you want to join?

I like running.
I can run fast.
I want to enjoy sports day.

What event do you want to enjoy?

文を読んで書けるようになるために、新教材では

Let's Try!

- アルファベットの大・小文字に慣れ親しむ
- アルファベットの文字の認識
- アルファベットの文字を読む・書く
- アルファベットの文字には二種類の読み方があることを知る
- アルファベットの音に慣れ親しむ
- 単語の認識
- 単語に見慣れる
- 単語を書き写す
- 単語を聞いて初頭音分かる
- 文中に単語カードを置く、単語を書き写す
- 語群から選んで書き写す
- 英文が読まれる音声を聞く
- 英文を見ながらそれが読まれる音声を聞く
- 英文を読む(音声を真似て言う)
- 例文を参考に書く、清書する、友達の清書を読む

Unit 1

Unit 1-3

Let's Read and Write

Grade Class Name

We Can 1 Unit 1

■自分について、もう一度まとめて書こう。絵もつけてみよう。

I like cats.

I like badminton.

I like math.

My birthday is _____

April 9th

I can cook

- 意味と音が先
- 聞いて、話してから少しずつ

We Can 1 Unit 1

Unit 1

Unit 1-8

Let's Read and Write

Grade Class Name

■自分について、もう一度まとめて書こう。絵もつけてみよう。

I like cats.

I like fish.

I like apples.

My hobby is reading.

I can draw.

- 意味と音が先
- 聞いて、話してから毎時間1文ずつ書き溜める
- 自己紹介をペア・グループでする/最後に書き溜めたものやテキストを参考に清書する

Ⅲ 読むこと・書くことの指導の在り方

新学習指導要領における「読むこと」「書くこと」の目標

外国語科 第2節英語 1目標

(2) 読むこと

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

(5) 書くこと

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。
また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

(2) 読むこと

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。

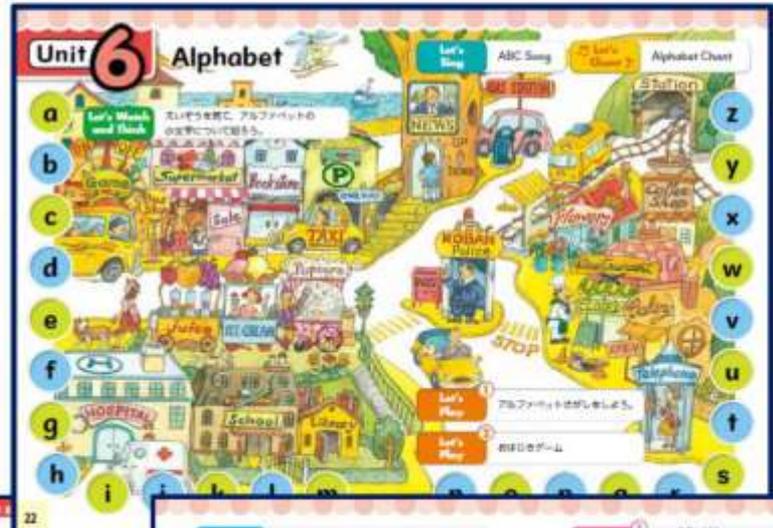
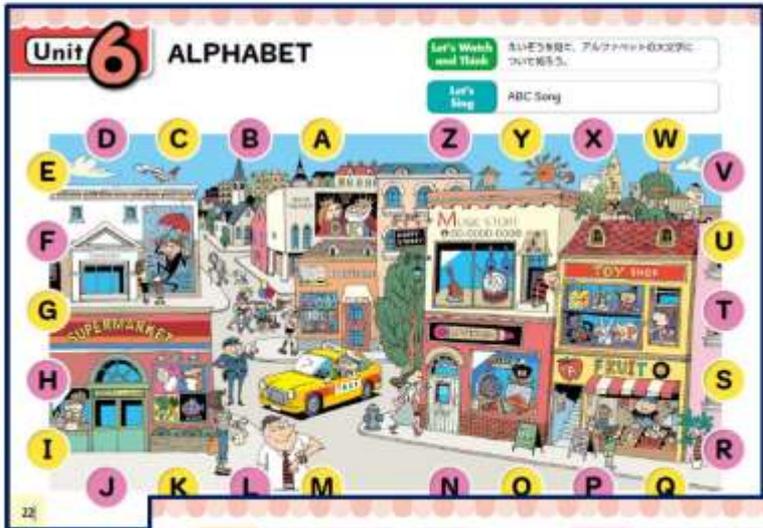
(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動。

(5) 書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。

(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動。

Let's Try! 1, 2で、アルファベットの 大・小文字に慣れ親しんだことを踏まえて



We Can! 1 Unit 1, 2, 3, 4

- アルファベットの文字に見慣れる。
- 歌やチャンツでアルファベットの文字の名称を聞いたり言ったりする。
- アルファベットの文字の名称を聞いて、文字と一致させる。
- 自分の名前のスペリングを言う。
- アルファベットの文字を書き写したり、書いたりする。

Ⅲ 読むこと・書くことの指導の在り方

文字の認識

- Aからではなく
- 線対称文字から
- 直線でできた文字

A H I M Y V X W
T F N L K E Z
G D B O J C P S Q U R

Unit 2 Sounds and Letters

1. お手本をよく見て、高さや形に気をつけて書こう。

2. 自分で練習しよう。

文字の認識

COSVWXZ
aeumnr
it
fhkl
gyj
bdpq

- 小文字の認識には、大文字の認識の3倍の時間がかかると言われている
- 大文字と同じ形の小文字から
- 一階建て文字、中二階建て文字、二階建て文字、地下一階建て文字
- 間違えやすい文字



文字の認識

We Can!収録文字カード

f	e	d	c	b
k	j	i	h	g
p	o	n	m	l
u	t	s	r	q
z	y	x	w	v

													
Name	Name	Name	Name	Name		sushi	parfait	pizza	miso soup	ramen			
						B	C	D	E	F			
Name	Name	Name	Name			G	H	I	J	K			
Name	Name	Name	Name			L	M	N	O	P			
Name	Name	Name	Name			Q	R	S	T	U			A
Name	Name	Name	Name			V	W	X	Y	Z			

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

(2) 読むこと

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする
掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする
情報を得る活動。

(エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な
表現を、絵本などの中から識別する活動。

We Can! 1 Unit 5-9 We Can! 2 Unit 1-9

- ジングルを通して、アルファベットの文字には、名称と音があることに気付いたり、文字の音に慣れ親しむ。
(ジングルを聞いて、単語の最初の音の文字を書く。)
- 簡単な単語を書き写したり、単語を見てイラストと結び付けたりする。
- 簡単な語句を推測しながら読んだりする。
- 友達の書いた文を読んで意味が分かる。
- 文字付絵カードを選んで、貼り付ける。
- 絵本の読み聞かせを聞いたり、音声を聞いて文字を指でおったりする。また、単語を探したりする。

Ⅲ 読むこと・書くことの指導の在り方

発音と文字とを関連づけながら単語の認識

ジングルや音声で十分に慣れ親しんだ語の初頭音と文字を結び付ける。

Unit 5 12200 Animals Jingle

Animals Jingleを思い出そう。
単語を聞いて、最初の音のアルファベットの小文字を書こう。

ant ox

elephant

monkey

rabbit

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

Unit 7 12200 Sounds and Letters

1. アルファベットの小文字をなぞって書こう。

2. 共通する最初の小文字を選んで、書こう。

(a b c d e)

5

Unit 7 12200 Sounds and Letters

1. アルファベットの小文字の抜けているところを書こう。
u v c e g h i k l m n o p q r s t v w x y z

2. 共通する最初の小文字を選んで、書こう。

(k l m n o)

Unit 7 12200 Sounds and Letters

1. アルファベットの小文字を書こう。

2. 共通する最後の小文字を選んで、書こう。

(u v w y z)

(u v w y z)

(u v w y z)

※(10分) 共通する最後の文字を書こう。

bo fo

izza

fish

melet

alad

oi dog

a b c d

e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z

Unit 9 12200 Sounds and Letters

※からまでの(2回)ジングルを言った後、最初の音の小文字を書こう。(p.74~75)

ing oata

erno

milk

el

mele

Unit 9 12200 Sounds and Letters

※からまでの(2回)ジングルを言った後、最初の音の小文字(大文字)を書こう。(p.74~75)

ish

oar

at

nk

arn

Unit 9 12200 Sounds and Letters

※からまでの(2回)ジングルを言った後、最初の音の小文字を書こう。(p.74~75)

ant apple

banana bear

cat cow

dog carrot

egg elephant

III 読むこと・書くことの指導の在り方

単語の認識・語順への気付き

- 文字が添えられた絵カードを貼る。
- シートから単語を探す。

Unit 3 教科ビンゴシート

What do you have on _____?

Let's Play the Bingo Game!

PE	arts and crafts	home economics	calligraphy
moral education	Sunday	Monday	Tuesday
Thursday	Friday	Saturday	fire fighter
vet	doctor	soccer player	florist
teacher	baseball player	police officer	get up
wash dishes	go to school	eat lunch	

Unit 4 Let's Read and Write

I always _____ my homework at 6:00.

_____ do my homework at _____.

例にならって書いてみよう。

I read _____ at _____.

I _____ at _____.

Unit 4 Let's Read and Write

Hello!

My name is Hikari.

I _____ at 6:30.

I always _____ wash the dishes.

Thank you.

Hello!

My name is _____.

_____ at _____.

_____ wash my dishes.

Thank you.

Unit 4 Let's Read and Write

Unit 5 ワードサーチ

かくれている生きものをさがしてみよう。

a	n	t	
p		o	g
f	e	g	f
b	k	m	
b	t	c	
f	i	s	h
o	g	b	m
x	a	u	t

- ant
- dog
- fish
- fox
- pig

III 読むこと・書くことの指導の在り方

単語の認識・語順への気付き

- 文字が添えられた絵カードを貼る。
- 文字を並べて単語になることを体感する。

○ I can play volleyball. 

△ I can't swim well. 

○ I can  .

△ I can't  .

Hint Box

 play soccer	 play baseball	 play basketball	 play table tennis	 play the piano
 play the recorder	 ride a unicycle	 swim	 skate	 ski
 do karate	 do judo	 play shop	 play judo	

5 Let's Read and Write

インタビューの結果

Hint Boxから切り取ってはり、スピーチの練習をしよう。

①   

②

③

Hint Box

 She	 She	 She	 can	 can't
 He	 He	 He	 can	 can't
			 can	 can't

Ⅲ 読むこと・書くことの指導の在り方

Unit 5 **インタビューシート(1)**

インタビューの準備をしよう。先生のできることを予想して、に巻こう。また、インタビューでの質問の仕方とインタビュー結果を書いてみよう。

●先生の姓をかこう。 ●HかBを4枚に書こう。

Mr. Tanaka She can  fast.

Ms. Fukuyama She can  play the piano.

Can you run fast? Can you play the piano?

回答 

				
<u>play shogi</u>	<u>play badminton</u>	<u>play the piano</u>	<u>play the recorder</u>	<u>ride a bicycle</u>
				
<u>cook</u>	<u>run fast</u>	<u>jump high</u>	<u>sing well</u>	<u>American</u>
				
<u>go home</u>	<u>do my homework</u>	<u>play with my friends</u>	<u>take a bath</u>	<u>eat dinner</u>
				
<u>go to bed</u>	<u>get the newspaper</u>	<u>take out the garbage</u>	<u>walk my dog</u>	<u>wash the dishes</u>
				
<u>clean my room</u>	<u>always</u>	<u>usually</u>	<u>sometimes</u>	<u>never</u>
				
<u>play soccer</u>	<u>play baseball</u>	<u>play badminton</u>	<u>play table tennis</u>	<u>play volleyball</u>
				
<u>swim</u>	<u>skate</u>	<u>ski</u>	<u>do karate</u>	<u>do judo</u>

文字と単語の認識

音声で十分に慣れ親しんだ語を書き写す。

Unit 6 Unit 01 Let's Read and Write

国の名前を書き写そう。

 Japan	 Brazil	 Canada
 Egypt	 Finland	 India
 Korea	 Peru	

行きたい国の
カードを貼る
/ 国名を書き
写す

Unit 6 Unit 02 Let's Read and Write

例にならって書いてみよう。

Hana: I want to go to Canada. 

Tatashi: I want to go to  India

 America	 Australia	 Brazil	 Canada
 China	 Finland	 India	 Kenya
 Korea	 Peru	 Spain	 Thailand

国名を
なぞり書き

III 読むこと・書くことの指導の在り方

視覚情報がある中、音声で十分に慣れ親しんだ語を推測して読んだり、書き写したりする。

Unit 9 2200E
Let's Read and Write

自分のヒーローを考えて、書いてみよう。



She is my sister, Kayo.
He/She is my _____

			
father	mother	brother	sister
			
grandfather	grandmother	family	

Unit 9 2200E
Let's Read and Write

自分が紹介したいヒーローの得意なことを1つ選び、書いてみよう。

She is good at playing the pi _____
He/She is good at _____

			
playing the recorder	playing the recorder	playing badminton	swimming
			
skating	skiing	cooking	singing

Unit 9 2200E
Let's Read and Write

自分が紹介したいヒーローはどんな人かを選んで書いてみよう。



She is cool.
He/She is _____

			
family	fantasy	great	active
			
hero	hero	hero	hero

Unit 9 2200E
Let's Read and Write

自分が紹介したいヒーローのできることを1つ選び、書いてみよう。

She can play the flute well.
He/She can _____ well.

				
play the piano	play the recorder	play kendama	play badminton	do kendo
				
swim	skate	ski	cook	sing well

Unit 9 2200E
Let's Read and Write

次の文を読んで書き写そう。
下に紹介したい人の絵(または写真)をいれよう。



She is my hero.
He/She is my hero.

My hero

(5) 書くこと

ア 語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

(イ) 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動。

(ウ) 相手に伝えるなどの目的をもって、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す活動。

We Can! 2 Unit 1-9

- 文中の簡単な語句を書き写す。

(5) 書くこと

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

(E) 相手に伝えるなどの目的をもって、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動。

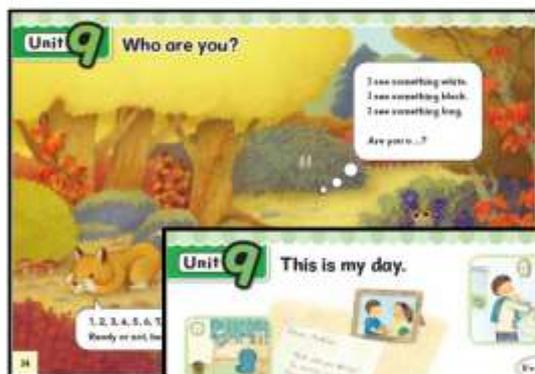
We Can! 2 Unit 1-9

- 例文を参考にして、自分の言いたいことに合うよう、ワードリストから選んだ語を書いて文を完成する。
- 書きためたワークシートを参考に、自分の発表したいことをまとめたり、清書したりする。

Ⅲ 読むこと・書くことの指導の在り方

- 単語に見慣れる。
- 視覚情報がある中、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を推測して読む。

全学年を通じて絵本を設定



- Let's Try! 1, 2では、絵本を題材にした単元の設定
- We Can! 1,2では、各単元に絵本1ページを設定

Ⅲ 読むこと・書くことの指導の在り方

視覚情報がある中、音声で十分に慣れ親しんだ語を推測して読んだり、書き写したりする。

Unit 6 Let's Read and Write

ブラジルのポスターにはどんなことが書かれていますか。友だちと相談しながら、わかるところに下線をひいてみよう。

Enjoy Brazil!

Hello. My name is Kosei. Brazil is a nice country. You can see Iguaçu Falls. They are great!

You can see Cristo Redentor, in Corcovado. It's very famous.

Unit 8 だれかのためにメニューを考えよう(1)

It's for my _____

p.64～65のメニューから選んで書いてみよう。

Main Dish: I'd like _____

Side Dish: I'd _____

Dessert: I'd _____

Unit 6 Let's Read and Write

Enjoy Brazil!

In Brazil, you can visit coffee farms. Do you like coffee? You can buy good coffee for your family.

You can see the carnival in Rio de Janeiro. It's very exciting!

Menu

Activity: だれかのためにメニューを考えよう。

小中高連携の必要性

H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
5年活 35H	6年活 50H-70H	中1	中2	中3	高1	高2	高3
4年	5年活 50H-70H	6年活 50H-70H	中1	中2	中3	高1	高2
3年	4年活 15H-35H	5年活 50H-70H	6年科 70H	中1	中2	中3	高1
	3年活 15H-35H	4年活 15H-35H	5年科 70H	6年科 70H	中1	中2	中3
		3年活 15H-35H	4年活 35H	5年科 70H	6年科 70H	中1	中2
			3年活 35H	4年活 35H	5年科 70H	6年科 70H	中1

小中高連携の必要性 言語材料に見る小中高の接続

中学校学習指導要領 外国語

ウ 語、連語及び慣用表現

(ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、**小学校で学習した語**に1600～1800語程度の
新語を加えた語

エ 文、部能増及び文法事項

**小学校学習指導要領第2章10節 外国語 第2の2の(1)の
エ**及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニ
ケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

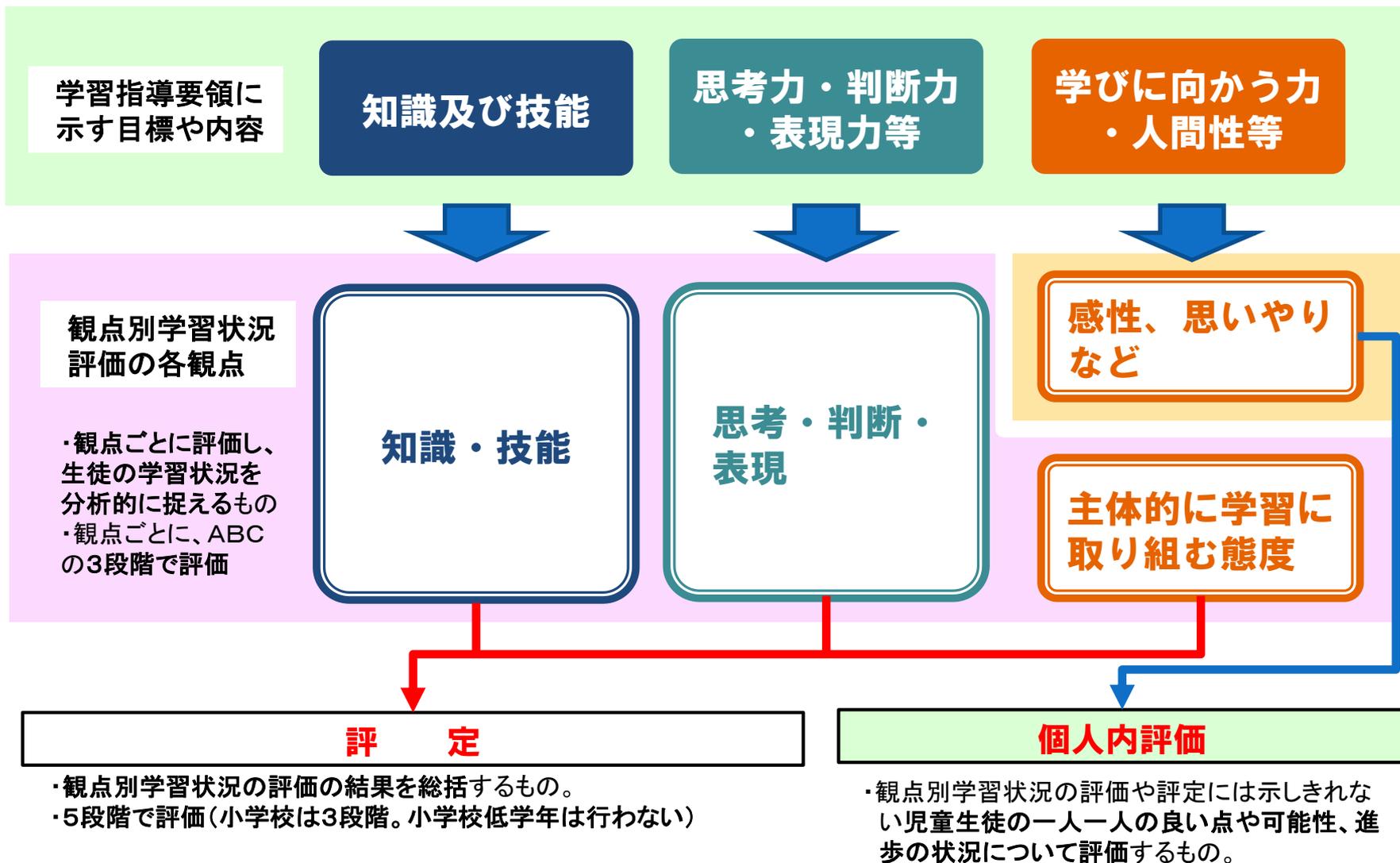
学習評価について指摘されている課題

- 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない。
- 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。
- 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。
- 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次学年や次学校段階において十分に活用されていない。

改善の方向性

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていく。
- ② 教師の指導改善につながるものにしていく。
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは大胆に見直していく。

学習評価の基本的な枠組み



〈参考〉

- 小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

- 全国学力・学習状況調査 英語予備調査(国立教育政策研究所)

https://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/kannren_chousa/eigo_yobic_housa.html